



# 彩の山

## 埼玉支部報 第33号

《題字 松本敏夫》

### 【目次】

新型コロナウイルスと安全登山の心構え	1	第3期埼玉やま塾状況報告	高橋 努	15
	大山光一	日本全国温泉巡り(第4回)	早川好治	17
今後の山行案内	3	山の本棚シリーズ その2	小原茂延	18
山行報告「3月 武川岳」	4	石橋さん追悼文	冨樫信樹	20
山行報告「4月 岩トレ」	5	「夏の山の楽しみ方」	平川陽一郎	21
山行報告「コロナ禍での山散歩」	7	新入会員 自己紹介	林 信行	22
指導者講習会「観天望気」	8	通常総会(議決権行使)	支部長	24
第8回大高取山自然観察会報告	10	事務局からのお知らせ	林 信行	26
山行報告「上高地山研・焼岳」	13	編集後記	橋本久子	27
山岳古道調査PJ進捗報告	14			

### 新型コロナウイルスと安全登山の心構え

支部長 大山光一

水無月を迎え、新型コロナウイルスの猛威の前に心も体も、そして社会全体も出口の見えない暗いトンネルの中にいると感じているのはわたしだけではないと思います。

この一年は、コロナウイルスに翻弄され、いわゆる三密(密閉・密集・密接)を避ける行動自粛の中で、働き方も生活様式も人間社会の核になるコミュニケーションも大きな変化をもたらしました。

そして、医療従事者に続き、本格的に高齢者へのワクチン接種が始まりましたが、希望する国民全員にワクチン接種(2回)が完了するには、年内一杯かかるだろうと予測する声があります。

勿論、医療や介護に携わっている関係者には、ただただ感謝しかありません。何とかこの危機を乗り越えるまで、自らの健康に留意され、頑張ってくださいを切に願わずにはられません。

一方、このような状況下でも山頂を目指す登山者の不幸な遭難のニュースが入ってきます。どんな登山者にも、どんな山でも遭難のリスクはあります。登山者は自身の経験や知識と技量に応じて、そのレベルで安全な登山を心がけて計画し、実行していると思います。しかし、残念ながら、遭難事故は後を絶ちません。

懸念するのは、遭難者に新型コロナウイルス感染の疑いがあった場合、その症状の確認、救助隊員の防護服着用を要するため、同時期に山岳遭難が重なれば、救助にも支障をきたす可能性もあり、救助体制や近隣の医療機関にも思わぬ影響が及ぶことが容易に想像できます。

また、山小屋は宿泊施設だけではなく、登山道の整備や遭難対策の役割も果たしています。登山者として積極的な協力が不可欠です。目的地の登山口に到達するまでの行動や山小屋・テントサイ

トにおける三密回避、マスクの着用、手洗いと消毒、等々。

新型コロナウイルス感染が収束しない限り、安心して登山はできませんが、わたしたち登山者も感染防止と事故を起こさぬことに留意して、安全な登山を構築していく必要があります。

安全な登山とは、自分の力量を超える行動はしないことです。あたりまえのことですが、現実的には行い難い行動です。自分の力量の多くは、経験を積み重ねて知ることであり、山についての経験は終わりが無いからです。従って、登山歴の浅い会員や新入会員を対象に開催している“埼玉やま塾”の存在に大いなる期待をしています。安全登山委員会の諸活動と併せて、知識7割、経験3割、ひとり一人が高い知識を蓄え貴重な経験を得ることで、安全な登山の可能性が広がります。

また、安全な登山を実践するなら、自分の力量がどのレベルにあるのか、常に顧みることです。体力に任せた登山や経験を過信した登山、昔の体力や技術も思ったよりも低いレベルになっています。

わたしの拙いヒマラヤの高所登山の経験から、安全登山を語るなら、人間は、誰かがいるから頼る部分があります。ある意味では甘えかもしれません。しかし、誰もいなければ、自分ですべて解決しなければならない。大事なことは、無事に登頂を果たし、五体満足で生還すること。簡単なようですが、これがなかなか難しい。安全は確率の問題であり、安心はメンタルの問題です。そして、事故を起こさないことが、登山という行為には大事になります。

それは自らが決めた計画にミスがあれば、自分で責任を取るということです。従って、登頂する可能性を予測する、先を読みきる力量がないと、計画の遂行は難しい。なぜなら、ミスの代償は、最悪の場合、命を失うということです。運よく生還しても、ダメージを受ければ、社会復帰は困難になります。その覚悟ができているか、どうかということです。

わたしにとって、登山は命がけの遊びです。ですから「自己責任」と「自力下山」を基本とした、安全対策を心がけています。冬のヒマラヤを登る技術と体力は勿論ですが、絶対に事故は起こさないという信念を持つこと。それは、危険予知能力(K・Y・T)を高めて危機管理に備えることです。

安全は見えませんが、危険は見えるからです。それでも過酷な自然の厳しさは、人間の想像をはるかに超えて、襲いかかってきます。従って、生きて還るためには、忍耐力も必要です。人生を生き抜くことと同様に、的確な「判断」と「決断力」、すべて自分で決めなければなりません。

安全登山の認識は、各自の思考や考え方により十人十色です。確実に安全な登山などありません。少なくとも、自然現象である天候の予測を加味した登山計画が力量に余裕のあるとき、安全な登山の確立が高まることになると思います。だからこそ、五感を研ぎ澄まして、危険予知能力(K・Y・T)を高めて、臨機応変、機に臨んで退く勇氣こそ、「安全な登山」の要諦ではないでしょうか。

## 今後の山行案内(月例山行)

山行委員長 山崎保夫

### \*注意事項

各担当から募集掲載(ホームページ・一斉メール)後に申し込みをお願いいたします。事前に申し込み等の問い合わせは行わないでください。

### 8月

北海道「百名山5座山行(羅臼岳・斜里岳・阿寒岳・大雪山(旭岳)・十勝岳)」

1. 日程 8月26日～9月6日 12日間
2. 交通機関 ワゴン車

### 9月

9月4日 沢登り(初心者対応)

9月月例山行(茅ヶ岳)

9月18日(土)

### 10月

「四季の山・秋山」

当初の計画の「甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳」は予定している登山道の南アルプススーパー林道が山梨県側で不通のため、北アルプスに変更。

1. 日程 10月2日～3日
2. 山域 五竜岳・唐松岳

清掃登山 新型コロナの影響により延期し、10月に再計画しました。

1. 山域 当初の計画通り 笠山～堂平山
2. 交通機関 マイクロバス
3. 日程 10月23日(土)

### 11月例山行

1. 日程 11月6日～7日
2. 山域 三重県 御在所岳

### 平日山行

1. 日程 11月11日
2. 山域 箱根 神山・駒ヶ岳

## 3月山行 「武川岳 1051.7m」 報告

山行委員 生田詳子

実施日：2021年3月13日（土）

メンバー：

- 1班 富田(GSL)、橋本、中嶋、清登、林、渡邊、
- 2班 生田(GL)、小野、若林、横山、金丸、吉田
- 3班 朝井 (GSL)、野口、高橋努、古川、米山、東

行程：西武秩父線芦ヶ久保駅から山伏峠までタクシーを利用し、山伏峠から登山開始しました。山伏峠（9：06）～前武川岳（10：40）～武川岳（11：00）～山伏峠（12：20）  
帰りは乗用車組の方に同乗させていただき、芦ヶ久保駅に集合解散となりました。

### 雨のあしがくぼ

3月13日は早朝から予報通り雨であった。それも大雨。雨ごときで中止になる山行ではないことは重々承知していた（そう勝手に思っている）。二年前のやま塾で平川先生から教えていただいた。「山には四季がある」と。一日の中に春夏秋冬があり・・・梅雨もある。そして・・・今日は一日中梅雨 ONLY であった。たしか去年の3月山行は雪であった。東さんから「私が雨女でごめんね」とメール。いえいえ私こそ雨女なのです。その二年前のやま塾で私が参加した実技はなぜか毎回雨・・・しかし、雨の中の登山は忘れることの出来ない(?) 思い出になるはず。苦勞して仲間と一緒に登ったやま。頂上で荷物も下ろさず「とりあえず写真撮らなくちゃ」とか、メガネが曇って何も見えないとか、一生忘れない稀少、いえ貴重な、つい思い出して笑ってしまうような宝物になるはず。さあ来年の3月はどんな山行になるか。今から楽しみです。

今回乗用車で送迎していただいた方々に本当に感謝です。ありがとうございました。

最後までお読みいただきありがとうございます。



武川岳山頂にて

## 第 1 回岩トレに参加して

準会員 小林弘美

実施日：4月24日（土）

場 所：平戸の岩場

集 合：東吾野駅 9:35 解散：15:00

参加者：12名

埼玉やま塾 2 期生から埼玉支部に入会しましたが、コロナ禍の影響で支部の山行になかなか参加できず、今回の岩トレが初めての参加となりました。

これまで岩登りをやろうなんて夢にも思っていないままでしたが、いつか憧れの岩稜帯の山へ行ってみたいとの思いから貴重な機会なので参加申込させていただきました。東吾野駅に集合後は歩き・車と各々で平戸の岩場へ向かい、岩場には 3ヶ所のロープを準備していただきました。

ヘルメット・ハーネスを装着し二人一組でチェック、まずはロープの結び方を教えていただき、皆で揃って 8 の字結びを繰り返し何度も練習しました。

なんとか 8 の字結びが出来るようになって、岩登りの見本を見せていただき、3 点支持、足は横にはせず真っすぐに置く等を教えていただき、いよいよ 3ヶ所に分かれて岩登りの練習開始です。



ハーネスに 8 の字結びをきれいに結ぼう



岩登りをする人は手足をどこに置いたらいいのか試行錯誤しながら、ビレイをしてくれている方や見学している方からの様々なアドバイスに耳を傾けながら登っていきます。

下から見ていると「あの場所に足を置ける」と気付けるのですが、実際に登っている時にはなかなか気付けないため、皆さんからのアドバイスがとっても助かります。

一番上まで行くことができるととても達成感がありました。

### 登山靴で登る

岩登りとビレイ（命を預かることになるので重要）の練習は皆で交代しながら全員が 3ヶ所の岩場登りを経験するまで続き、その後、緊急時等にスリングでチェストタイプの簡易ハーネスつくるということを教えていただき、何度か結び方の練習をしたところでちょうど終了時間となりました。

岩トレ終了後は参加者全員で平戸の岩場を管理されている大野さんのご自宅にご挨拶に伺い、「ココ（岩場）まで来なくても日頃の生活中でもトレーニングはできるよ」と、色々なことを教えていただいたので、日頃の生活の中で実践していきたいなと思いました。



チェストハーネス作り



ビレイは真剣に！命を預かっています

企画いただいた轟さんをはじめ、大山支部長、山学同人／河合さん、小池さんにはご指導いただきありがとうございました。

また一緒させていただいた皆様、ありがとうございました。

天候に恵まれ、とても貴重な体験ができ、楽しい一日を過ごさせていただきましたこと、感謝致します。

これまで同様にコロナ対策に気を付けながら、今年は色々な山行に参加してみたいと思っていますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

集合写真



## コロナ禍での山散歩（個人山行・秩父の雨乞山）

埼玉やま塾兼ふれあい登山担当 高橋 努

（ご参加の皆様・今山さん、米山さん、野口さん、浅田さん、清登さん、東さん、立原さん、高橋）

昨年からは山行委員会では毎日休日のベテラン会員向けに「平日山行」を計画することとなった。そこで春秋の良い季節に人の少ない登山道をゆっくり歩き、それに花とか景色とかのプラスワンも楽しめるコースを選んだ。ところが春の桐生・鳴神山はコロナで中止せざるを得なくなってしまった。



秋には9名で山梨百名山の高川山で冠雪の富士と紅葉を楽しみ、帰路には大月駅前で喉を潤す機会も持てた。今年の春は昨年のリベンジで再び桐生のカッコソウ咲く鳴神山を計画したが、またもやコロナ第4波である。「県を跨ぐな」

の号令ですすがに群馬県に越境するわけにもいかずまたもや中止。それでは、有志でせめて埼玉県内で低山の山散歩を楽しみ、帰路に有名な「骨波田の藤花」を訪れようということになった。

朝もゆっくりで10時に秩父鉄道樋口駅に集合、他に人影もない。集落を抜けて林道と登山道をたらたらと辿れば榎峠を経て2時間足らずで開けた雨乞山山頂に到着。ここはハンググライダーの基地でもあり眼前には広々とした空間が実に心地よい。一同、「おーっ、気持ちいい」と心の底からの歓声が上がる。コロナ禍のストレスが空に抜けて散っていくようだ。

支部の山行ではあり得ない1時間の昼食大休止を楽しみ歓談が盛り上がる。

帰路は間瀬峠から長い舗装道路歩きで児玉町高柳の長泉寺へ向かう。途中の間瀬湖にはヘラブナ釣りの釣り人が湖畔で居眠りしているようだ。間瀬ダムは東日本最古の農業用ダムで風格を感じさせる。

曹洞宗大用山長泉寺は室町時代に縁起を持つ立派な寺院であるが、樹齢650年というとんでもない古木の藤があり、ちょうど満開である。「ひゃー！凄いな、感動する」の声が上がる。由緒ある古刹を満たす芳香にうっとりするようだ。

しかも無理やり引っ張りこんだご夫婦を加えて10名の団体半額250円で

にんまりとする。事前の調査不足でバスが無いことが分かり児玉駅まで



樹齢 650年の古木



樹齢 270年の白藤

4キロを50分で踏破し、JR八高線に駆けこんだ。

**日本山岳会主催 指導者講習会「観天望気」報告****山行委員 東 洋子**

4月3日～4日と日本山岳会主催の指導者講習会として、“観天望気”の学びの機会がありました。本来は2月13日～14日でしたが、コロナウイルスで延期となり、少し落ち着いた4月に開催され、埼玉支部からは私を含めて3人で参加しました。

以前から、機会があったら学びたいとは思っていましたが、“ヤマテン”などで名前が知れている猪熊隆之氏の講座と実際に八ヶ岳を見ながらの“観展望気”のライブ授業もあるとの事で、楽しみに出掛けました。

冊子の“山と渓谷”などでも特集が度々組まれる、読図・ロープワーク・観天望気という三種の神器！の一つで、山に登るなら知識として知らないといけない事。私は山岳部の経験もなく、また、自分から真剣に学ぼうとしたこともなかったので、講座を受けたのは初めて。参加した人：19人の中では高齢な方で、40歳代以下は2人でした。

まず、長野県警察山岳救助隊の副隊長の母袋さんの山岳遭難の事故の話があり、それに続いて猪熊さんの講義がありました。

この時の講義は“気象リスクマネジメント”という題でテキストに沿っての話でした。計画段階で登山の成否の半分は決まる。登山計画を立てた時にリスクの想定と対策を練ること。登山ルートにより気象リスクは大きく違ってくる。

気象遭難：①低体温症 ②落雷 ③沢の増水 ④突風による転落死 他に雪崩や熱中症。これは森林限界を超える山でリスクは大きくなっている。これを防ぐには、まずは天気図。そして登山中の雲や風を確認する。

天気がどうして崩れるのか？山があるから。海との位置関係。そして等圧線の向き（風向き）等圧線の間隔（風速）について、パワーポイントを使っただけの講義でした。そして夕飯と風呂。

その後、2つのグループに別れて、秋山10月5～7日に白馬岳に梅池自然園側から登頂するという想定で討議と講義が10時過ぎまでありました。この時の天気図が示されていましたが、太平洋に二つの高気圧。大陸には低気圧。そして日本海には前線。実際に遭難事故が起きた気象状況で、この場合に出発をしてから、どんな気象になるのか？3000m上空ではどんな風が吹いているのか？どこで引き返したら良いのかなどを、グループで討論し、発表して、学び合いました。

翌日は、学習にはもってこいの？曇り。これから雨が降り出すという予報の空模様。その中を宿泊していた小諸の安藤百福センターの近くの八ヶ岳パノラマトレイルや蓼科を展望するコースを歩きながら、ライブ授業を受けました。雨予報でしたが時折雨粒を感じるくらいで、降られずに終了。雲を観察しながら、風の通り道を感じたり、学んだり。小諸という地形が盆地で山岳地帯とは大きく違う事なども体感しました。

この講習で、スキー仲間の山岳部員だったおばさま方が言っていた言葉を思い出しました。

**”朝日のチャッカリ、姥のニッコリ、油断めさるな”**



調子の良さそうな時には、後が危ないと！気をつけなさいよと。この日は確かに明るいんだけど、雲が多く、雲の流れもあって、”あれがレンズ雲”などと説明を受けていました。これから荒れてくる前兆の雲。

富士山がよく見える山にゆくと、雲をまとった姿をよく見ます。その雲により、これから荒れてくるのか？風が強くて、山の向こう側にゆけないのか？まだ学びが足りないと、学びはじめて知りました。感覚ではなく、きちんと知識が必要だと。



2日間の講習会で、登山とは？と改めて考える機会を得ました。冒険的な要素の強いスポーツと。遭難事故を起こさない為には、セルフレスキューの練習・徹底が大切と。

このところ、単独登山が増えています。また、高齢な登山者（加齢による筋力の衰え・持久力が落ちている・咄嗟の時に手が出ない）も増えています。事故を起こさない為には、今まで1泊で行っていたところを2泊に。休みながら、余裕を持って。

蛇足ですが、宿泊をした小諸の郊外、山の中腹にある建物は建築家の隈研吾さんの設計でした。アプローチのところには、関係のない人は入れないと、注意書きがあるような目立つ素敵な建物で、中はスロープで宿泊の部屋にゆくようになっていて、間接照明とコンセントが見えない！壁や机で建築家のこだわりを感じました。建物の外も鳥小屋のようなツリーハウスが作られていて、楽しめる空間でした。

いつも新たな？！学びのある2日間でした。購入した猪熊さんの本をちゃんと読んで、学習します。

**第6回高尾グリーンセンター森づくり研修会報告**  
 自然保護委員長 **渡邊嘉也**

- 日 時 2021年4月29日(木)～30日(金) 1泊2日
- 体験研修場所 高尾グリーンセンター周囲の高尾山梅ノ木平国有林  
八王子市南浅川町2905-4
- 体験研修内容 間伐、除伐、植樹、林床整備、歩道開削、その他&自然観察会
- 参加者 渡邊泰子\* 轟 涼 吉田寛治 金丸一豊 横山真一 中嶋信隆  
龍 久仁人 渡邊嘉也、工学院大学山岳部OB会：大室昌久 足立原 章  
中井真行\* 飯村俊夫\* (敬称略) \*印は29日のみ参加 計12名
- 宿 泊 高尾グリーンセンター
- 参加費 宿泊3,500円(29日夕食、30日朝食、弁当)、
- 装 備
  - ・ヘルメット、作業用具、チェーンソーなどの機材一式は高尾グリーンセンターが提供、
  - ・身支度は、作業ができる長袖の服、長ズボン、靴は登山靴又は野外作業用長靴を着用
- 作業指導  
講師：龍 久仁人、加藤信夫、千谷恵子
- 活 動 :

29日	内 容	備 考
9:00～	高尾山口8:30集合 体験参加者は9:30	道具類準備：加藤講師
9:40～ 9:50	オリエンテーション(作業小屋) 挨拶：間伐目的、自己紹介、作業説明と安全 班分け、体操、集合写真、移動開始	
10:00～ 12:00	間伐(民有林)各班：6名 ○千谷班：(渡邊泰子) 轟 涼 中嶋信隆 大室昌久 吉田寛治 龍久仁人 ○加藤班：金丸一豊 足立原章 (中井昌行) 渡邊嘉也 横山真一(飯村敏夫)	留守居担当：龍(兼任) ・緊急時連絡対応等 ・○印はリーダー ・( )は29日のみ
12:15～	昼食(作業現地)	
12:40～ 16:30	道づくり、除伐、地拵え、篠竹棒刺し、 植樹(ヤマグリ、ヤマザクラ各20本) ブルーベリー2本 (252に小班)	午前と同じ班分け
16:30～	夕食準備、 夕食後：夜間自然観察会は雨天の為中止	

30日

7:00	朝食	
9:00	間伐(ロープ掛け、受け口・追い口作り、チェーンソー取扱い実習)、天然林施業・刈出し(252い・は小班)	

11:00～	2020 年秋の植樹（カツラ、ヤマザクラ）の生育状況観察、植生観察、 昼食 榎窪山、草戸山自然観察	
14:30～	作業道具片付け、メンテナンス、清掃等	
15:00	振り返り（作業小屋） 解散	

<植樹要領> :

植える木は、ヤマグリ、ヤマザクラの 2 種、20 本。

樹種の名札の付いた篠竹を 3m 間隔で刺し (ha 当たり 1,000 本)、その位置に植える。

植え付け手順

- |   |
|---|
| <p>①篠竹を抜き、その位置に深さ 20～30 c m 程度の穴を掘る。<br/>②穴に苗木の根を広げて入れ、掘り出した土で埋め戻す。<br/>③苗木の根元を足でよく踏みしめて、根と土を密着させる。<br/>④抜いた篠竹を苗木の上側のすぐ傍にしっかり刺す。<br/>⑤植樹記念に自分の名前を名札に書き込みましょう。</p> |
|---|

<作業安全上の注意事項等>

項目	内 容
一般事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上下作業の禁止。</li> <li>・ 落石があったら、大きな声で「落！」と叫び注意喚起する。</li> <li>・ 林内は走らない、刃物は振り回さない。</li> </ul>
除間伐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原則手ノコで、安全で伐りやすい位置で伐採。</li> <li>・ 隣の人との距離を置く。特に直径 8 c m 以上の伐採は樹高の 2 倍の間隔を取る。</li> <li>・ 追い口を入れる際は、大きな声で注意喚起する。</li> <li>・ 支援者の指導に従う。</li> </ul>
道づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山側に鍬を打つ。つるや根は鍬を打ち、又は鋸・剪定ばさみで切る。</li> <li>・ 転倒に注意。</li> </ul>

<道具類の確認（参加者数により最終確定する）>

備品類	数量	備考
ヘルメット	13 コ	全員（名前を記入する）
唐鍬	10 本	各班 5 本
手ノコ、2 丁刺し	13 丁	2 丁刺しは希望者
剪定鍬	4 個	歩道根切り用、除伐時 各班 2 個
ロープ	4 本	各班 2 本
チェーンソー	2 台	実技体験研修用、支援者緊急用
間伐用具セット	2 組	クサビ、カラビナ、補助ロープ
救急薬品(吸引器)	2 セット	各班 1 セット



## 6月山行 焼岳～上高地(山研)に参加して

準会員 奥村一江

期日：2021年6月19日(土)～20日(日) 1泊2日

場所：北アルプス 焼岳

参加者：13名

行程：【1日目】新中の湯ルート登山口～広場～焼岳北峰～新中尾峠～焼岳小屋～上高地(山研)

【2日目】岳沢ルート：山研～岳沢登山口～風穴～岳沢小屋～岳沢登山口

埼玉やま塾第2期講習終了後、新型コロナやケガの影響もあり2回目の山行参加でした。さらに、個人的には緊急事態宣言などで3か月ぶりの山行でした。

1日目はあいにく終日雨でしたが雨等の状況により、当初中止予定が北峰ピストンへと変更となり、最終的に幸いにも上高地ルートで行くことができました。ただ、標準の雨対策はしていましたが、下山時は頭～足先まで全身濡れていました。普段、単独ならこの天候では絶対に行かないので雨対策不足を痛感するとともに、諸先輩方の工夫などを直に見ることができてとても勉強になりました。また一方、木々の緑色がより深く、高山植物も色鮮やかに見えるなど雨の良さを感じることができ、さらにガスっている中でしたが初めて雷鳥も見ることができ、感動しました。



2日目、私は岳沢ルートを選択しました。前日の雨がウソのように晴れていて、雨上がりの木々は前日とは異なり色鮮やかで、青空と雲のコントラストも良く、前日はほぼ見えなかったアルプスの山々を間近で見ることができました。風穴も本当に涼しく気持ち良かったです。

宿泊した山研は、思ったより広くて綺麗で快適でした。特に風呂に入ることができ、雨で濡れた身体が温まり疲労も緩和できて助かりました。夕食はもちろん豪華で美味しくその後の談話で皆さん一人一人を知ることができ、たくさん山の話もしてあっという間に時間が過ぎました。

今回2日間で本当に様々なことを学習できました。参加した皆さんに感謝いたします。そして、

個人的には筋力不足など課題は山積みですが、是非また山行に参加したいです。ありがとうございました。



**埼玉支部・山岳古道調査プロジェクト進捗報告（令和3年5月）**  
副実行委員長 松本敏夫

日本山岳会創立120周年記念事業として、全国山岳古道調査「日本の山岳古道120選」が2020年9月26日に日本山岳会・山岳古道調査プロジェクトチーム（以下、山岳古道PT）により提示され、各委員会及び全国の支部並びに会員に対し、調査古道候補の選出依頼がありました。埼玉支部では2021年3月9日に、①雁坂峠越え、②十文字峠越え、③三峯参詣道、④鎌倉街道(笛付峠越え)、⑤奥武蔵古道、補欠として⑥慈光寺道を山岳古道PTに提案しております。古道の概略コース、推薦理由、資料等の詳細は、埼玉支部ホームページに掲載されております。



雁坂峠



十文字峠

山岳古道 PT では、全国から推薦された古道を集計し、221 古道（重複あり）を一覧として各支部に提示（4 月 25 日）済です。その中から、更に第一次調査対象古道として、全国から 59 古道をリストアップし、各支部に担当古道が提示（5 月 5 日）されました。埼玉支部の推薦古道からは「十文字峠越え」及び「雁坂峠越え」が選出されております。前者の長野県側は信濃支部と、後者の山梨県側は山梨支部と、各々協議・協力して調査することが推奨されるものと考えられます。また、東京多摩支部から推薦のあった「日原秩父往還と富士信仰の道」も第一次調査対象古道に選出され、埼玉県側（浦山～大日堂～仙元尾根～仙元峠）の調査に関しては協力要請等が推測されるところであります。今後、山岳古道 PT から、第二次、第三次の調査対象古道が追加される予定であることから、埼玉支部から推薦した前述の 2 古道以外はその際に選出される可能性が高いものと考えられます。よって、予備調査や探索登山等は随時実際し、資料を蓄積することが望まれます。

現在、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発出及びまん延防止等重点措置が適用中であり、不要不急の外出や都県間の移動を控えること、三密の回避等の感染防止対策の徹底が呼びかけられている状況ですので、県外での調査・山行はコロナ禍の推移を見守りながら実施することになると推測されます。一方、県内での机上調査や探索山行は感染防止対策を念頭に進められるべきものと考えられます。古道探索の山行を企画する際は、古道調査計画書を作成し、プロジェクトメンバー及び会員に提示して参加者を募集すると共に、実行委員長（支部長）、事務局長、分担古道のリーダー及び副実行委員長に登山計画書の提出をお願いいたします。

山岳古道調査プロジェクトは日本山岳会創立 120 周年記念事業ですので、できるだけ多くの会員の皆様に調査活動に参画いただき、歴史と文化や伝説に深く根差した埼玉の山岳や峠道を楽しむきっかけとしていただければ幸いです。

### 第 3 期「埼玉やま塾」開講しました

埼玉やま塾兼ふれあい登山担当 高橋 努

コロナ禍のため昨年開講中止となってしまった第 3 期埼玉やま塾は、今年は机上講習を感染リスクのないオンライン講習として開講しました。3 月 1 日から募集開始したところ、僅か 3 週間ほどで定員 15 名に達しました。その後の申込の方には来年に先行案内することとしました。昨年からお待ちいただいた方が 5 名あり、第 3 期は 20 名での開講となりました。参加者の内訳は男性 4 名・女性 16 名、埼玉県在住 11 名・その他首都圏 9 名、平均年齢 51.6 歳です。

オンライン講習のため事前にテキスト等を郵送し、オンライン初心者のための練習会も行い、5 月 18 日（火）第 1 回のオンライン講習が開催されました。オンラインは若干の課題はありましたが、後日、受講者にアンケートもとりスムーズに受講できるように改善も図りました。

第 1 回の登山技術講習は 6 月 6 日（日）に大高取山で開催しました。

午前 9 時に受講生、平川コーチとサポートメンバー 7 名が越生駅に集合し、改装なった越生駅舎の中でサポートメンバーチーフの小野康子さん（埼玉やま塾 2 期生）の進行で自己紹介があり、そ

の後、平川コーチから山での歩き方、休み方、ザックや雨具の注意、そして恒例の全員の靴紐の締め直しなどがあり、雨模様の中、元気に出発しました。平川コーチはトップを歩き、2番手、3番手の塾生とお話ししながら、適時に塾生の順番を変えていくという方法で塾生の状態などを把握され、同時に塾生の方々の気持ちを掴まれるというきめ細かい配慮があり、塾生も歩きながらいろいろ質問もでき満足そうでした。休憩時には行動食や水分の取り方、ポールの活用方法等々、盛りだくさんな内容で、最後には登山体操（出発前にはストレッチではなく体をアクティブに動かし、下山後にしっかりストレッチするのが良い）で締めくくりました。このコースは行き交う登山者は数組と少なく、私たちがマスク着用、ディスタンスにも気を配り、コロナ感染対策にも十分な配慮をしました。



#### 大高取山 実技講習

今回は22名のサポートメンバーに第2期生から4名の方に入っただき、コミュニケーションを取っていただいたり、オンライン講習では稲越会員の豊富なスキルが存分に発揮され、塾生の方々にも埼玉支部の力量や雰囲気を感じ取ってもらえたものと思います。

平川コーチからは、「今回は塾生全員の入会を目指しましょう」との力強いメッセージもいただいております。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



## 日本全国温泉巡り（群馬県）第4回

会員 早川好治(泉舟)

## 【群馬県】

尾瀬ヶ原からお花畑を眺めながら至仏山に登り、最高の気分になっていた山頂で、突然「好ちゃん」と声を掛けられびっくり、いここでした。

尾瀬の近くには、かたしな温泉があり、登山の汗を流せます。

勝海舟が湯治した鼻曲山の登山口に湧く秘湯霧積温泉「金湯館」は、旧中山道沿いにあり軽井沢までハイキング可能です。西条八十の詩、また小説や映画「人間の証明」で有名になり、飲泉が可能な極上の透明な適温の湯が溢れています。山菜や川魚料理も美味です。

榛名山中腹にある伊香保温泉街の一番上に湧く濁り湯の露天風呂は、酒を飲んで入っても逆上せない泉質で、入口で酒を売っています。榛名富士は榛名湖から30分で登れます。

超秘湯ガラメキ温泉は、駐車場から登山道1時間、伊香保温泉と反対側の榛名山中腹にあり、小さなぬるめの濁り湯の露天風呂が湧いています。

浅間隠温泉郷は湯船の下から湧く鳩の湯「三鳩楼」、茅葺きの薬師温泉「旅籠」、眼病に効能ある温川温泉「白雲荘」があります。

草津温泉の上方にある万座温泉は、白濁の湯が溢れ心地よい気分に入れます。

紅葉の季節に最高の気分に入れる尻焼温泉は、川底から温泉が湧出しています。

吉永小百合さんのCM、四万ブルーで有名になった奥四万湖は美しいし、温泉街の散策が楽しい四万温泉は、飲泉すれば胃腸に優しい湯とされています。多数の宿がありますが「積善館」元禄の湯(国の登録文化財)は素敵で、ロマン溢れる湯船です。

たんげ温泉「美郷館」の男性用の内湯の眼前からは、湯量豊富な滝が見られます。

法師温泉「長寿館」の大浴場は、浴槽の下から湯が湧きゆったりと入っていられます。

川古温泉「浜屋旅館」は、ぬるめの混浴の露天風呂に長時間浸かって湯治します。

宝川温泉「汪泉閣」は、昔はご主人が露天風呂で子熊の入浴を見させてくれました。

上牧温泉「辰己館」の内湯には、山下清の壁画があり感動します。

川中温泉は日本三大美人の湯の一つで、「かど半旅館」の女将さんも美人でした。

赤城山に湧く梨木温泉「梨木館」の源泉掛け流しの濁り湯は素晴らしいし、また珍しいキジ料理が味わえます。庭には松尾芭蕉の句碑もあります。

茅葺き屋根の忠治温泉「忠治館」には、国定忠治の関係する物が飾ってあります。

磯部温泉街の公園に、温泉マーク発祥地の石碑(江戸時代)があります。



「山の本棚」シリーズ

会員 小原茂延

深田久弥 (その2)

作家、登山家、随筆家

付記

I 他の著作

・山岳関係に限っても枚挙にいとまがない程であるが、前頁の写真に掲げた文庫本は愛読した。

「わが愛する山々」「山岳遍歴」「山岳展望」「わが山山」

「山頂の憩い」

「日本百名山」に比べて構えたところが無く、百名山に入っていない山が多く、各地の名山で200,300名山などにその後選定(深田クラブ、日本山岳会)された山など味わい深く愛山家向き好著。

同行者として登場する不二さん、茂知さんは藤島敏男、望月達夫といったJAC名誉会員でもあり、そのやり取りが実に楽しい。

II 登山の師と仰ぐ人

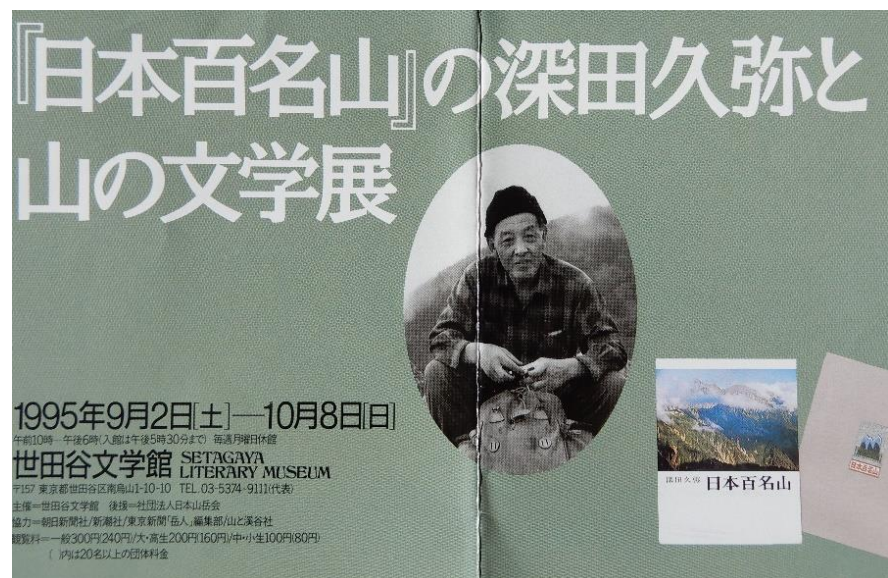
・郷里石川県大聖寺町で、先輩の稲坂謙三氏から山の手ほどきを受け、大正7年中学3年の時に白山に登った。その後、一高時代の先輩田辺和雄(旧姓浜田)に登山の指導を受けており、その後もよく山行を共にした。大菩薩連嶺の尾根で銀嶺に光る南アルプスの峰々を一つ残さず名指して聞かされ感嘆と羨望の念に打たれたという。田辺は後に植物学者となり、キリマンジャロなどの植物調査隊長としてアフリカに赴いたが病で客死した。武田久吉が日本の至宝を失ったとその死を悼んだ。田辺の山手帳50冊余は深田に託され出版を意図していたが、深田の急死で果たせず。世田谷文学館が所蔵している。

III 展示会等

世田谷文学館



2017.7.15~9.18  
後援 日本山岳会



1995.9.2~10.8 協力 日本山岳会

補 遺

山岳展望

新宿三越が建った頃、そこから見える山岳の眺望を井伏鱒二に話したところ、彼は「時事新報」に新宿の景物誌を連載していたので、挿絵代わりに深田が書いた展望図を載せたという。山好きの作家である宇野浩二はこの記事を切り取って大切に保存していると雑誌に書いたそうである。深田が昭和 10 年頃、都内から山の展望地として、赤羽の鉄橋、戸山ヶ原の土手他を挙げているが、『山岳』に木暮理太郎が書いた「東京から見える山」を参考にしたという。木暮の以前は中村清太郎に始まる展望図のルーツがある。(木暮の時代の展望は愛宕の塔、浅草凌雲閣、六郷土手など)

「読み、歩き、書いた」

深田はフランス語を大岡昇平に習った。テキストはスタンダードで、久弥の墓石の側面に刻まれた「読み、歩き、書いた」は、スタンダードの「生きた、書いた、愛した」に倣った。(飯島斉の文)

「百の頂に百の喜び」

ゲーテは行政官で解剖学者、鉱物学者、小説家、詩人であった。「旅人の夜の歌」の冒頭に、「なべての頂の上に憩いあり・・・」とあり、久弥からこの詩をもじったと聞いた。(山寺仁太郎談)

「山の品格 山格」

近藤信行氏が書いているが、深田に「山格」説をもたらしたのは福田宏年で、旧制松山高校に名物教授として知られた北川淳一郎が「人に人格があるように、山には『山格』がある」ことを生徒だった福田の口吻に深田は共鳴したという。

シュラーギントワイト・アトラス購入

「日本百名山」で読売文学賞を受け、副賞の 30 万円に手持ちの 10 万円を足して丸善から、シュラーギントワイト・アトラスを購入、志げ子夫人は家計を嘆いた由、久弥他界の後に国会図書館に譲渡した。(有償)



## 石橋正美さんを偲ぶ

富樫信樹(元埼玉支部事務局長)

私と石橋正美さんとの出会いは2009年に日本山岳会の埼玉支部の立ち上げに始まりました。当時日本山岳会の現状から支部活動の活性化のため首都圏で支部の立ち上げの動きとして千葉支部の設立や、東京多摩支部の設立が進められていました。

2009年臼木博信氏が尾上会長、神崎副会長から埼玉支部の設立を依頼され、臼木氏は埼玉県在住の会員に働きかけをし、7月には富樫も呼ばれ準備委員会が15名で開催されました。その時初めて石橋正美さんにお会いしました。石橋さんは本部で財務委員会の理事で資料映像委員会の委員長を務められ、財務に詳しく本部との対応ができる方で委員会の中で設立に向けて強く推進をされておりました。

11月に設立懇談会が開催され、支部組織・各委員会の事業内容・人事等が検討されました。石橋さんは温厚な人柄で臼木さんや各委員会のメンバーと共に組織や事業の内容をまとめられておりました。

その後の発起人会を経て2010年4月の設立総会で石橋さんが初代の会長に就任されました。2012年健康上の理由で退任されるまで2年間役員会の会務をよくまとめられてきました。石橋さんの設立総会で埼玉支部の会員の皆さんに強く訴えられたご挨拶の一部をご紹介します。いただきその想いをお伝えいたします。

「今の日本山岳会の現状を見ますと、高齢化が進み、会員も減少傾向にあって、昔のようなパワーに陰りがみられることは疑いをいれない事実であると認識いたしております。歴代会長が特に強調されるのは、日本山岳会を活性化させるには、支部が元気でなければならない、支部活動を通じて活性化を図ろうということです」

「今や日本山岳会は会員の減少傾向に歯止めがかからず、財務の面でも年々厳しくなっていると聞いております。特に若い会員が少ないことから、会本来の登山活動にも支障が出ることは容易に想像されます。支部活動の重要な柱のひとつとして、新しい会員の獲得に力を注ぎたいと存じます」

「会員の皆さんにおかれては、身近に作った埼玉支部を積極的に利用して大いに盛りたてて頂きたいと存じます。本当の意味で支部が活性化するかどうか、これは構成員である皆さんの、参加意識如何に掛かっていると思います。皆さんのお力を頂きながら、立派な支部を作り上げることをお誓い申し上げてご挨拶いたします」

「事業を企画し主導する役員より、一人一人の会員が参加意識を強く持ことが何よりも大事です」  
石橋正美さんの埼玉支部に対する熱い思いをお伝えし、衷心よりご冥福をお祈りします。



## 安心・快適登山のための One Point アドバイス

### 第12回「夏の山の楽しみ方」

会員・日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡ 平川陽一郎

さあ、待望の夏山シーズンの幕開けです。

埼玉県では、3月下旬に桜が咲き春を迎えます、12月には氷が張り冬となります。

では、JACの山岳研究所の有る穂高では、桜は7月の月上旬前後に咲き、9月には氷が張ります。  
山の夏は3カ月と短いものです。短い夏山ですが、楽しみは沢山あります。

短い夏に咲き乱れ、私たちを楽しませてくれる高山植物はその代表でしょう。

天候安定、気温は高く、日照時間も長い夏山は厳しい季節には手の届かない日本を代表する高峰にチャレンジする絶好の季節です。

アルプスでの絶景テント泊、歴史のある有名な山小屋での宿泊などは、普段の山では味わえない楽しさの一つです。

夏の山を楽しむ為いくつかのポイントがあります。

- ① 午後から雷雨が来ます。安全登山の為には、行動は2時に終える計画を立てましょう。
- ② 熱中症と低体温症は、ウェアのレイヤリングと適正な飲食で防ぐことが出来ます。
- ③ コロナ禍では、山小屋の営業形態や交通機関が以前と違います。早めの事前調査が必要です。
- ④ 体調・天候・ルート状況の3本柱全てが安全で無ければ、その時は無理をせずに中止しましょう。

**新入会員 自己紹介**

**事務局長 林 信行**

《田崎貞夫さん 会員番号 16780》

はじめまして。この春、埼玉支部に所属しました。さいたま市在住（現在は福井県に出張中）の田崎貞夫と申します。今まで単独登山が主流でしたので、仲間と楽しくステップアップできればと思い入会しました。登山は2017年から始めてまだ初心者ですが、登山は大好きです。普段はお金をかけず健康維持のため、関東の低山を多く登っています。今回入会したものの福井県に出張中のため「埼玉やま塾」および委員会に参加できずじまいですが、参加したい気持ちは十分ありますので、埼玉に戻りしだい活動していきます。先輩の方々ならびに会の教えを守り活動していく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

《児玉和孝さん 準会員番号 A0376》

初めまして、新規に入会しました児玉と申します。よろしく願いします。私は、昨年からは百名山の登山を始めました。自己流で、一人で登ることが多かったため、一度山登りについて学ぼうと思っておりました。偶然にも植村冒険館で「2021年度 埼玉やま塾」第3期生募集のパンフレットを見つけて直ぐ応募しましたが、すでに満員でした。その際、大山支部長様、林事務局長様より、日本山岳会埼玉支部の活動状況及び山行計画等、ご説明いただき、入会することになりました。登山マナー、安全な登山、山での緊急事態発生時のサバイバル方法等を学び、他の会員の方々とも懇親を図りながら『百名山制覇』を達成したいと思います。登山に関して分からない事がたくさんあり、不慣れです。何卒ご指導のほど、宜しく願い申し上げます。

《本村貴子さん 準会員番号 A0380》

この度、埼玉支部へ加えて頂きました本村貴子です。いつの日か祖父の眺めた大天井からの景色を見てみたい...それが遅い山歩きを始めるきっかけになりました。ご縁があって、ここ数年は秩父の山々を歩いておりましたが、サイトにて120周年記念事業山岳古道調査を知り、学びの場を見つけた嬉しさに、迷わず入会の手続を致しました。創立の明治38年は、奇しくも祖父の生まれた年です。これもご縁でしょうか...。見たことの無い景色を眺め、知らない事を知るのは、私にとり、この上ない喜びです。皆様どうぞ色々なお話をお聴かせ下さい。宜しく願い致します。

新入会員の本村 貴子さんから事務局 林宛に入会申込書が郵送されたとき、一枚の写真が同封されて来ました。

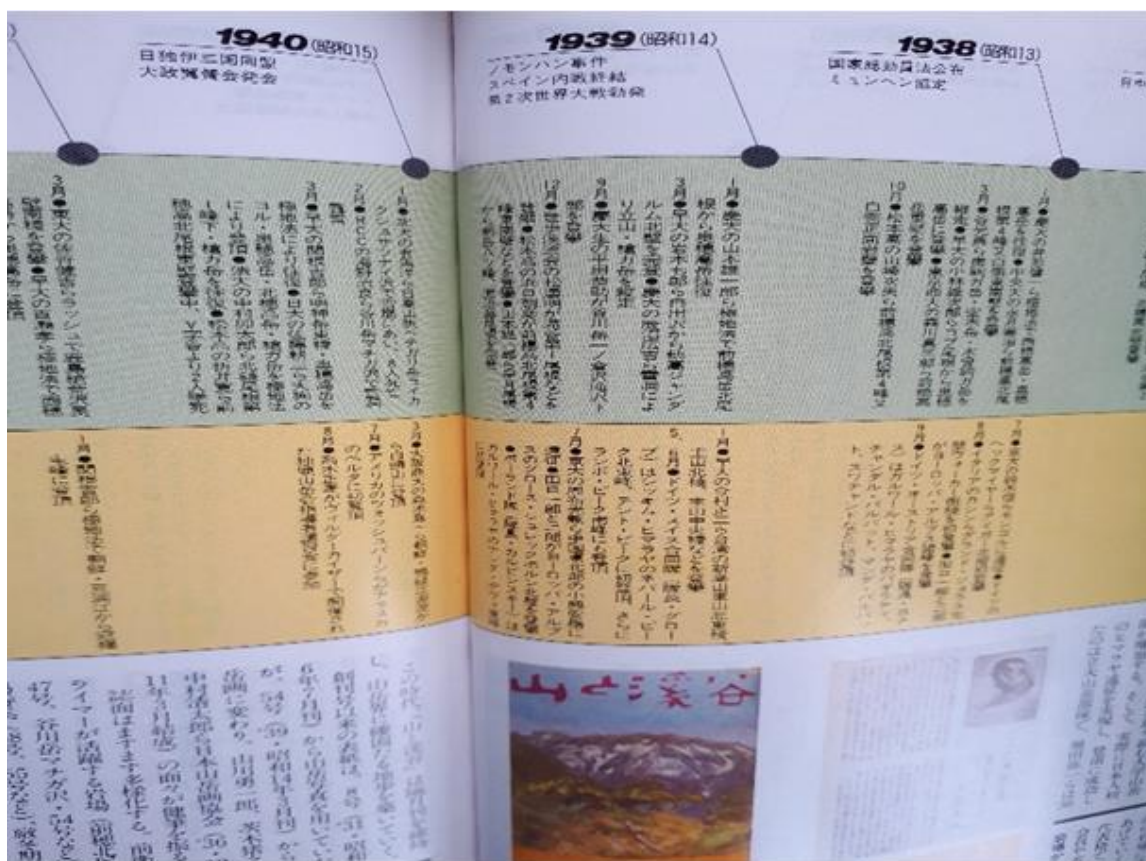
明治38年生まれの本村さんのご祖父様が昭和14年7月に大天井で撮られた写真だそうです。なかなかいい写真だな～と感銘し、是非支部会員の皆様にもご覧頂こうと、本村さんより掲載のお許しを頂きました。



早速、昭和14年はどのような時代であったのか『山と溪谷』N0.658の特集「山と溪谷に見る昭和登山史」を開いてみると、この頃より段々と日本も戦時体制が色濃くなって来たようです。後に悲惨な戦争に突入していくなんで思ってもみなかったことでしょう。

本村さんからは「登山を始めて10年目の2020年、祖父が歩いた燕岳～大天井のルートをトレースすることが出来ました。」と書かれています。

背をシャキッと伸ばし、槍を見つめておられる素敵な写真、是非ご覧ください。



**2021年度第12回 公益社団法人日本山岳会埼玉支部通常総会  
(通常総会中止に伴う議決権行使および議事録について)**

**2021年度第12回公益社団法人日本山岳会埼玉支部通常総会  
(通常総会中止に伴う議決権行使及び議事録について)**

埼玉支部通常総会は2021年4月10日(土)、埼玉会館で開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症が留まることなく蔓延し、新たな変異株の出現に予断を許さない環境になりました。このような状況下を鑑みて、3月10日(水)の支部委員会で通常総会開催の中止と会員投票による議案審議とすることに決定し、会員に対し書面による議決権の行使を依頼しました。

総会成立と議案の審議は、すでに提出いただいた委任状及び議決権行使により承認とさせていただきますこととしました。

さらに、3度目の緊急事態宣言(4都府県)が発令され、国内の死亡者数が1万人を突破。(4/25現在)公共施設等の使用が難しいと判断し、少人数によるZoomによる臨時支部委員会を下記の日程で開催。総会結果の集計および審議を実施したところです。

1、期 日：2021年(令和3年)4月30日(金)：18時00分から19時20分

2、場 所：Zoom

3、出席者：大山光一支部長、山崎保夫副支部長、林信行事務局長及び松本敏夫評議員(計4名)

4、議事録：大山光一

5、議決権行使書の結果

在籍会員数125名のところ、議決権行使85名。よって、会員現在数の1/3以上となり、総会は成立致しました。また、議決権行使85名のうち、82名の会員が議案に対し賛成票でした。(内、3票は賛成・反対が無記入)

6、議事

1号議案 2020年度事業(案)及び収支決算(案)について

議決権行使及び委任状により、2020年度事業報告(案)及び収支決算(案)は原案通り承認されました。また、収支決算(案)は、中村直樹監事及び龍久仁人監事による2021年3月30日の会計監査の結果、帳簿・領収書等妥当と認められています。

2号議案 支部新役員(案)及び埼玉支部役員(案)について

新支部役員に小島千代美、橋本久子、飯塚雅信各会員の選任が承認されました。

※2021年度日本山岳会埼玉支部役員は次の通りである。

(支部長)大山光一、(副支部長兼山行委員長)山崎保夫、(副支部長兼山行副委員長)中嶋信隆、(事務局長兼総務委員長)林 信行、(会計担当)轟 涼、(総務副委員長)米山英三、(安全登山委員長)官川美知子、(安全登山副委員長・新任)飯塚雅信、(自然保護委員長)渡邊嘉也、(社会貢献委員長)熊谷友昭、(広報委員長：支部報編集担当・新任)橋本久子、(広報副委員長：ホームページ担当)稲越洋一、(埼玉やま塾兼ふれあい登山担当)高橋 努、



(ふれあい登山担当・新任)小島千代美、(監事)中村直樹、(監事)龍久仁人、(評議員)松本敏夫、計17名で、原案通り承認されました。

3号議案 2021年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

2021年度事業計画(案)及び収支予算(案)は、原案通りに承認されました。

4号議案 支部規約改正(案)について

2020年度通常総会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い公共施設の会場確保が困難となり、書面審議を実施しました。しかし、書面審議に関して規約等で明示されておらず、総会開催が困難な場合は書面による議決ができるように一部条文を改正しました。原案の通り承認されました。

7、報告事項

- 1) 「埼玉やま塾」について
- 2) 登山者初心者向け安全登山技術講座「歩いて健康」(ウエスタ川越)について

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021年4月30日

議長(支部長) 大山 光一 

埼玉支部事務局長 林 信行 

**事務局からのお知らせ**

**事務局長 林 信行**

**埼玉支部会員 在籍者数及び異動**

2021年6月6日現在

会員	125名	準会員	12名	計	137名
----	------	-----	-----	---	------

**【入 会】**

会 員			準会員		
16757	小野 康子	4月準会員より移行	A0376	小玉 和孝	5月
16780	田崎 貞夫	4月	A0380	本村 貴子	5月

**【退 会】**

会 員			準会員		
13674	市川 一	4月			
12991	加藤 仁	4月			

≪埼玉支部の平川陽一郎会員が本部の理事に就任≫

6月19日(土)に行なわれた日本山岳会・令和3年度通常総会で  
埼玉支部 平川陽一郎会員が本部理事に就任されました。

**【2021年度支部会費納入についてのお願い】**

※ 支部会費未納の方は、7月末日までに下記の支部口座へお振込み下さい。

(1)会費：①会員 2,000円 ②準会員 2,000円③家計を同じくする者1人 1,500円

(2)払い込み先：郵便局 口座記号：00140—7— 口座番号：374281

加入者名：公益社団法人日本山岳会埼玉支部

(3)お問い合わせ：会計担当 轟 涼 電話 080-5455-7216 ryo-tod817@ezweb.ne.jp

【編集後記】 —ごあいさつ—

この1月の竹内タミ子さんの急逝で広報委員の後を引き継ぐことになった橋本です。

日本山岳会には2011年に入会し同時に入会した埼玉支部には10年間お世話になってきました。

昨年度はちょうど10周年記念行事の一つである記念誌発行の編集に携わることができ埼玉支部の歩みを振り返る良い機会でもありました。この10年間は長年勤めた教員生活に終止符を打ち山に登る機会を得たことはかけがえのない時間でもあったと改めて思います。

埼玉支部の行事の中でも印象深いのは皆さんと苦勞して登った5周年記念の海外登山のチュルー最東峰です。私にとって初めてのヒマラヤ登山は失敗だらけでした。

アタックは午前2時と聞いていた私は午前2時に間に合うようにテントを出ればよいと思いついてその時間に行ったらもうほかの方は集まっています、皆さんを寒い中に待たせていたのです。私にもっと経験があれば10分前ぐらいには集まっていたはずですが。

それ以来、約束の時間には、特に山では絶対に遅れないということを肝に命じてきました。

いろいろなことを教わった埼玉支部です。世話になるばかりでなくここでひとつ恩返ししなければと思い広報の仕事を引き受けることにしました。

なにぶん初めての仕事なので至らないことも多々あると思いますがなにとぞよろしくお願ひいたします。

初めて担当することになるのでごあいさつを何か書いたらという事務局長さんのアドバイスをいただきましたのでチュルー最東峰登山の時詠んだ短歌を書いてみたいと思います。

拙いものですがその時の雰囲気想像していただければ嬉しいです。

**ブルーアイス**

**午前二時テントを出でて暗闇ヘリウム電池よ凍らず照らせ  
アタックを粥一椀でトライするこれがヒマラヤ 雪稜はるか  
スタートに遅れをとって二番手にシェルパと二人黙して進む  
焦れども先のつかめぬ闇のなか雪は明かりを吸いとるものか  
ステップを切らんと蹴り込む雪の壁アックス二本でもがきにもがく  
くちびるもほおもみみたぶも凍てついて皮膚がなくなる冷気の中で  
じわじわと白みはじめる山懐におんながひとり彷徨っている  
むらさきの光まぶしきこの傾りプルシャンブルーの天空迫る  
仰ぎみるゆく手をはばむブルーアイス右と左に鋭く切り**

橋本 久子



鳥海山(由利高原より) 橋本久子 画

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第33号 2021年7月7日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 支部長 大山光一

事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾 1910 林信行方

電話：080-2256-4829 Email: [stm@jac.or.jp](mailto:stm@jac.or.jp)

埼玉支部ホームページ：<http://www.jac.or.jp/saitamasibu/index.html>